

西部パレット利用者連絡会ニュース

【発行】西部パレット利用者連絡会幹事会

【発行日】2010年7月7日 NO.4号

6月24日第5回利用者連絡会全体会におき、県の「会議室なしで総合庁舎へ縮小移転」に対し、幹事会から「**移転せず、縮小のみ**」を提案しました。

「どうせ県が決めることだもの、変えられっこない」なんて、思っていないませんか？

私たちはNPOです！ こうなったらいいのを、とことん考え、NPOのプライドをかけ、意見表明しませんか？

いよいよ大詰めに近づいてきました。次回7月23日、正式な組織として意見をまとめあげる手続きを皆さんと一緒に考えます。これを経て県を交えた最終的な会議を8月29日に開催しますので、**23日はNPOとしてとても大事な会議になります。**

● 第4回全体会の報告：5月29日の会議では、県から3名、連絡会から33名が出席。

会議では、障害のある人が、特に視覚障害のある人がサービス提供者としてパレットで活動していること、そして、これは外に出ることなく、長時間安心して必要なものを用意できる複合施設の中にパレットがあるから、成し得たことだとわかりました。

高齢者や、少数ゆえに今まで多数決で大きな声が出せなかった障害のある人、外国人など、そしてそうした人々とともに活動をすすめている団体から「移転されると活動が継続できない、この場にあることの大切さ」について意見が多くでました。

自助努力の上、ユニバーサルデザインに配慮されたパレットという公助を得て、共助活動が可能になったのです。自立って何でしょうか。これこそ私達がめざしている社会ではありませんか。

こんなに素晴らしい事業を提供していることを県は誇って欲しい。

パレットの価値を理解した上で、県は、県か市か誰が運営すべきかについて、見直しのポイントにしていることを強調されました。

● 第5回全体会の報告：6月24日の会議は、県から3名、市から1名、連絡会から16名が出席。

移転先が県の総合庁舎であることに関わり、十分な面積が取れないなどの問題点については、以前、連絡会から言及されましたが、あらたに以下のような意見がでました。

・そもそもNPO活動は市民から立ち上がってくるものだ。パレットが行政の建物の中に入るのはへんだと思う。大きなデメリットとなる。市民活動も行政と協働することもあるけれど、NPOの本来の担うべき役割は『行政に頼らず行政から自立したもの』であるはずだ。

・NPOは民だからこそ、行政の施設に入れない事情を抱えた人の支援ができる。もし、パレットが総合庁舎へ移転したら、そのような人たちへの支援はどうするのか？

・行政の拠点である建物に入ると、NPO団体のみが特別扱いされていると一般市民は感じるのではないか。

次回は7月23日（金）午後6時半から開催します